



その 9 ちょっと待って! その「耳にいい」商品、本当に「あなたにいい」ですか?

シャボン玉石けん社も以前は売っていた合成洗剤の国内シェアは97%。石けんはたったの3%。CMで宣伝している商品を何の疑問もなく買う消費者が大半です。でも意識の高い方は勉強しています。「界面活性剤」、という言葉にも敏感です。

ただ、きちんと説明できるかといわれると……? それをいいことに、界面活性剤の毒性を並べ立てて脅かし、自分のところの洗剤は安全ですよといって不当に高い洗剤を売りつける悪徳業者もいます。それだけ洗剤業界というのは大きなお金が動くのでしょう。体も頭も服も洗わない人はいませんものね。

私が勤めている薬局は、皮膚科の近くにあります。頭皮のかゆみで受診され「先生がシャンプーを中止してお湯だけで洗うように言うから、そのとおりにしたら良くなってきたわ。CMで見た売れ筋商品だから大丈夫だと思ったのに」という患者さんもおられます。

高校の化学で「石けん」を習った方はご存知かと思いますが、界面活性剤は、油と水、混じらない性質のものを混ぜるものです。マヨネーズに含まれる卵のレシチンも、界面活性剤のひとつです。

一般的に、人体や環境への影響が懸念されるのは合成の界面活性剤です。シャンプーを流した後、いつまでも排水口がぶくぶくしていませんか? 合成洗剤は、少量でも泡立ちが良いというメリットの反面、汚れを落としてもまだ界面活性作用を持ち続けるという特徴があります。海に流れていっても、皮膚や衣類に残っても……。

石けんも界面活性剤ではありますが、汚れが落ちた後は、速やかにその界面活性作用を失ってくれるのが長所でもあります。石けんの洗浄力は高いですが、それが長続きしないのが特徴です。皮膚についても洗えば落ちて、残留しませんし、海に流れても微

生物が分解できます(もちろん、石けんは油からできていますから、大量に流せば環境に負荷をかけます。食器の汚れはまず重曹をかけて拭きとってから洗いましょう)。

合成洗剤の中には「天然のパーム油からできた……」などと書かれている商品があります。一見、環境にも人体にも優しそうですが、たとえ原料が天然のものでも、できあがったものは合成洗剤です。買うときに裏側の品質表示を見ることをおすすめします(石けんには、純石けん分、脂肪酸ナトリウム、脂肪酸カリウム、石ケン素地、この4つのどれかが書かれています)。

私自身も小学生の頃、湯垢がすっきり取れるというお風呂用洗剤でひどい主婦湿疹になり、ゴム手袋を使うよう皮膚科で言われました。台所も洗濯も粉石けんを使っていたのに……。あれ以来、合成洗剤と縁を切り、専業主婦だったときですら主婦湿疹にはなっていません(笑)。

CMを鵜呑みにするのではなく、消費者も自分の目と皮膚感覚を磨いて、日々使う商品を選びたいものです。それは生き方そのものにつながるかもしれません。自分にとって気持ちが良いことが地球環境にとっても良いことでもありますように。



これまでのナチュラルクリーニングはコチラ
▶ <http://www.shabon.com/column/>



興 幸子(おきさちこ)さん

大学で天然物化学を専攻し、製薬メーカー、調剤薬局に薬剤師として勤務。安全で気持ちの良い生活法を提案する「ナチュラル家事」の講師として各地で講演中。薬剤師、公益社団法人日本アロマ環境協会認定アロマセラピーアドバイザー、ハウスキーピング協会認定整理収納アドバイザー